

授業 科目名	解剖学 (Anatomy)	履修年次:	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 加瀬 政彦 (医師) (研究室 教育棟 A210)
		必修: 歯1年	コード: DHB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の細胞・組織および器官・器官系の階層性を体系的に理解し、それぞれの構造を機能と関連付けて説明できるようになることを目的とする。				
〔授業の概要〕 人体の形態や構造とその成り立ちを学び、全身の正常な機能を理解することは、歯科衛生士が修得すべき基礎ならびに臨床専門科目の基盤となるのみならず、全身疾患を有する患者の病態を理解するうえでもかかせない。この科目では、細胞から組織、器官、器官系へと連なる階層性に着目して構造的特徴を学び、それらが恒常性維持のための特有な機能をもつことを理解できるように授業を進めていく。				
キーワード: 細胞・組織・器官、神経系と運動器、呼吸と循環、消化吸収と排泄、生殖と発生				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	総論	人体の構成と区分、細胞および組織の構造と機能	
第2回	4/17	骨格系	骨組織、骨の形状と構造、連結、主要骨格	
第3回	4/24	筋と運動	筋の構造と筋収縮のしくみ、主要骨格筋、運動と反射	
第4回	5/1	神経系1	神経の興奮と伝導、中枢神経系、髄膜、脳の血管	
第5回	5/8	神経系2	脳神経、脊髄神経、自律神経系、神経伝導路	
第6回	5/15	感覚器	外皮、体性感覚、特殊感覚器の構造と機能	
第7回	5/22	呼吸器系	呼吸器の構造、ガス交換と呼吸調節	
第8回	5/29	循環器系	心臓の構造と機能、体循環と肺循環、血管の構造と機能、動静脈系	
第9回	6/5	血液	血液の成分、血液凝固・線溶系、血液型	
第10回	6/12	消化器系1	消化管の構造と機能	
第11回	6/19	消化器系2	肝・胆・膵の構造と機能	
第12回	6/26	排泄	尿の生成と排尿、排便、発汗、不感蒸泄	
第13回	7/3	内分泌系	恒常性維持のしくみ、内分泌腺の構造と機能、体温	
第14回	7/10	生殖	生殖器の構造と機能、性周期、発生、成長	
第15回	7/17	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		事前にテキストを熟読して予習のこと。復習には配布資料やノートの見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」、医歯薬出版		
参考書・参考資料等		「ぜんぶわかる人体解剖図」橋本尚詞、成美堂出版		
学生に対する評価		定期試験 (70%)、日ごろの学習態度 (30%) により、総合的に評価する		

授業 科目名	生理学 (Physiology)	履修年次	2単位 30時間	担当教員名: 田崎 雅和[歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯1年	コード: DHB102	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識 VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 各臓器や組織の生理的調節機能についての知識を得る。生体の恒常性(ホメオスタシス)を維持するために、動物性機能と植物性機能との調節機構により生命体を維持している基本的な知識を学び、生体の機能・調節機構を理解し説明できる。				
〔授業の概要〕 人体に生じるさまざまな生命現象の機構を物理学的手法で論理的に理解し、それを説明できることは歯科衛生士にとり重要である。一般目標は生体の顎、口腔、顔面領域の機能を理解するために生命体の各器官系の調節維持機構を論理的に説明できることを習得する。行動目標は器官系の機能を理解し説明できる。方略は講義形式。担当者は東京歯科大学・生理学講座・教授として生理学・口腔生理学の講義および実習を行った実務経験により、生理学に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 動物性機能、植物性機能、神経性調節、液性調節				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/7	ガイダンス	生理学総論	
第2回	10/21	細胞の基本的機能	細胞膜の透過性と細胞の電気現象	
第3回	10/28	筋細胞と神経細胞	筋細胞と神経細胞の組織・構造	
第4回	11/11	神経細胞の機能	興奮伝導、シナプス構造とシナプス伝達	
第5回	11/18	末梢神経系	体性神経系と自律神経系	
第6回	11/25	中枢神経系	中神経系の機能	
第7回	12/2	筋細胞の機能	興奮収縮連関、収縮様式	
第8回	12/9	消化・吸収	消化液の分泌と消化管の運動、消化管ホルモン	
第9回	12/16	循環	血液と血液凝固、心機能と心電図	
第10回	12/23	呼吸	呼吸器と胸郭、換気量と呼吸中枢	
第11回	1/6	感覚	体性感覚と特殊感覚	
第12回	1/20	排泄	腎の機能と内分泌、尿の生成と排尿	
第13回	1/27	体温	体熱産生と放散、体温調節機構	
第14回	1/29	内分泌	内分泌器官と内分泌	
第15回	2/3	内分泌と生殖	性ホルモン、性周期と体温	
履修条件	生物学を既に習得済みであることが望ましい。			
予習・復習	予習; 授業テーマを把握する。復習; 授業で示した教科書の図を理解する。			
テキスト	体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (最新 歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版刊)			
参考書・参考資料等	イラストでわかる歯科医学の基礎 (監修; 梶端 孟、祖父江 鎮雄、谷 明、西村 康 永末書店刊)			
学生に対する評価	国家試験形式の客観試験(80%)と学習態度・出席(20%)による総合評価			

授業 科目名	内科学概論 (Internal Medicine)	必修：歯1年	1単位 15 時間	担当教員名：太和田暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		実務経験のある教員による授業科目	コード：DHB103	
〔DP〕 III 実践に必要な知識 I 倫理観とプロフェッショナリズム VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この講義では主要な内科疾患の病態、診断・検査法、治療法の概要を学修し、口腔衛生と全身性疾患の関連を理解し、安全で効率的な歯科口腔管理を行うために必要な内科学の概要修得を目標とする。以下をテーマとして扱う。 ①代表的内科疾患の概要を説明できる。 ②歯科保健衛生管理上留意すべき内科疾患、内科治療について説明できる。				
〔授業の概要〕 歯科衛生学の学習に際しては主要な疾病の理解が求められる。そこで、この授業では講義形式により、主要な内科疾患について口腔疾患と内科疾患との関連をふまえた観点から教授する。講義では、主要な内科疾患における病態、診断・検査法、治療法について学習する。本講義では、様々な内科疾患の概要を総合的に学習することにより、内科疾患を背景とした場合の歯科衛生の理解を増すことを目的とする。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：内科学、歯科口腔衛生、歯周病、糖尿病、誤嚥性肺炎				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/2	内科学の基本的考え方	疾病の考え方、内科からみた歯科・口腔衛生など	
第2回	10/9	感染症1	感染症総論、歯周病と全身への影響	
第3回	10/16	感染症2	嚥下性肺炎、ピロリ菌感染症	
第4回	10/23	感染症3	ウイルス性肝炎、肝硬変症、HIV	
第5回	10/30	代謝性疾患	糖尿病・糖代謝異常	
第6回	11/6	循環器疾患	心不全、虚血性心疾患、不整脈の概要	
第7回	11/13	低栄養、消耗性疾患	低栄養、サルコペニア、オーラルフレイル	
第8回	11/20	総まとめ		
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	なるほどなっとく！内科学（南山堂）			
参考書・参考資料等	病気がみえるシリーズ（MEDIC MEDIA）			
学生に対する評価	定期試験 80% 課題の提出状況 20%			

授業 科目名	高齢者医療論 (Gerontology)	必修：歯2年	1単位 15時間	担当：太和田暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
この授業では高齢者の健康維持や疾病治療の特殊性をふまえた観点から教授し、高齢者の口腔衛生管理や指導を安全かつ効率的に行う基盤を作ることを目的とする。学生に求める目標は以下の通りである。				
① 高齢者における口腔衛生管理の重要性を説明できる。				
② 高齢者に頻度の高い疾患を挙げ、治療薬も含め、歯科診療に及ぼす影響について説明できる。				
〔授業の概要〕				
高齢者にとって栄養の管理や口腔内の衛生は、疾病の治療や生活の維持に極めて重要である。そこで、この授業では講義形式により、高齢者における身体機能の変化や疾病の特徴について高齢者の健康維持や疾病治療の特殊性をふまえた観点から教授する。講義では、老化に伴った身体機能の変化、老化が関連する疾病の病態や対策を学習する。本講義では、このような学習をとおして、高齢化社会で求められる歯科衛生を理解することを目的とする。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：老化、加齢、老年病、高齢者医療、オーラルフレイル				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/3	高齢者疾病総論	高齢化社会の現状と将来の問題点	
第2回	10/10	老化とは	加齢による口腔衛生状態・身体機能の変化	
第3回	10/17	老化と疾病総論	老年症候群、高齢者に多くみられる症候	
第4回	10/24	高齢者の疾病各論1	高齢者に頻度の高い中枢神経疾患1	
第5回	10/31	高齢者の疾病各論2	高齢者に頻度の高い中枢神経疾患2	
第6回	11/7	高齢者の疾患各論3	高齢者に頻度の高い心・血管病変	
第7回	11/14	高齢者の薬物療法	治療薬の概要・副作用と歯科診療	
第8回	11/21	総まとめ		
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨			
テキスト	老年学 標準理学療法学・作業療法学シリーズ 医学書院			
参考書・参考資料等	病気がみえるシリーズ メディックメディア			
学生に対する評価	定期試験 80% 課題の提出状況 20%			

授業 科目名	口腔解剖学 (Oral Anatomy)	履修年次	2 単位 30 時間	担当教員名 科目責任者： 阿部 伸一 [歯科医師] 廣内 英智 [歯科医師] (非常勤講師室)
		必修：歯 1 年	コード：DHB201	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, VI 多職種との協働, VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科衛生士の役割を的確に果たすために、顎・顔面・口腔・歯の形態および構造を理解することを目的とし、①顎・顔面の骨・筋・神経・脈管・口腔内臓および摂食・嚥下の解剖 ②歯の形態 ③歯・歯周組織の構造および発生について学ぶ。				
〔授業の概要〕 歯科衛生士が対象とする顎・顔面・口腔および歯の形態と組織構造を学ぶことにより、歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導などの臨床において理論的な裏付けに基づき理解することを目的とする。(本授業はオムニバス方式により行い、主に廣内 英智が担当するが、摂食・嚥下の解剖については実務経験に基づき阿部 伸一が担当する。)				
キーワード：頭頸部の解剖、永久歯の形態、乳歯の形態、歯・歯周組織の構造、摂食・嚥下				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第 1 回	4/8	骨 (1)	頭蓋を構成する骨	廣内 英智
第 2 回	4/15	骨 (2)	上顎骨・下顎骨	廣内 英智
第 3 回	4/22	筋 (1)	顎・顔面の筋 (咀嚼筋・表情筋)	廣内 英智
第 4 回	5/13	筋 (2)、脈管	顎・顔面の筋 (舌骨上筋群)、分布する脈管	廣内 英智
第 5 回	5/20	神経	脳神経 12 対	廣内 英智
第 6 回	5/27	骨学演習	骨学の復習	廣内 英智
第 7 回	6/3	中間試験	筆記試験および骨を対象とした試験	廣内 英智
第 8 回	6/10	口腔内臓	唾液腺・舌	廣内 英智
第 9 回	6/17	永久歯の形態 (1)	永久歯総論、前歯の形態	廣内 英智
第 10 回	6/24	永久歯の形態 (2)	臼歯の形態	廣内 英智
第 11 回	7/1	乳歯の形態 (1)	乳歯総論、乳前歯の形態	廣内 英智
第 12 回	7/8	乳歯の形態 (2)	乳臼歯の形態	廣内 英智
第 13 回	7/22	歯の発生	歯の形成過程	廣内 英智
第 14 回	7/29	総復習	口腔内臓、歯の形態などに関する総復習	廣内 英智
第 15 回	7/30	摂食・嚥下の解剖	摂食・嚥下に関与する筋・神経	阿部 伸一
履修条件	1 年前期の解剖学総論を履修			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートおよび配布資料の見直しを推奨			
テキスト	①「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 ②「全身骨学 学習サイドノート」阿部 伸一 著、わかば出版 ③「口腔顎顔面解剖ノート 第 2 版」井出 吉信ら 著、学建書院			
参考書・参考資料等	指定しない。講義の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	中間試験 (50%)、定期試験 (50%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	口腔生理学 (Oral Physiology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 田崎 雅和 [歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯 2 年	コード: DHB202	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 口腔、顎顔面領域の臓器や組織の生理的機能についての知識を得る。口腔、顎顔面領域の恒常性(ホメオスタシス)を維持するための動物性機能と植物性機能との基本的な知識を学び、口腔、顎顔面領域の生理的機能と調節機構を理解し説明できる。				
〔授業の概要〕 口腔で生じるさまざまな生命現象の機構を物理学的手法で論理的に理解し、それを説明できることは歯科衛生士にとり重要である。一般目標は生体の口腔、顎顔面領域の機能を理解するために咀嚼器官系の正常な働きについての知識を得る。生理学で学んだ基礎知識をもとに口腔で生じる生命現象の機構を論理的に説明できることを目標に以下を習得する。行動目標は口腔器官系の機能および機構を理解し説明できる。方略は講義形式。担当者は東京歯科大学・生理学講座・教授として生理学・口腔生理学の講義および実習を行った実務経験により、口腔生理学に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 口腔感覚、咀嚼、顎反射、唾液、発音				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	5/28	感 覚	口腔感覚を理解するための感覚	
第2回	6/4	口腔感覚	歯と口腔組織の感覚	
第3回	6/11	特殊感覚	嗅覚と味覚・味覚異常・味覚検査	
第4回	6/18	咬合と咀嚼	下顎位と下顎運動、下顎限界運動と筋電図	
第5回	6/25	顎反射	筋紡錘と顎反射	
第6回	7/2	嚥下・吸啜・嘔吐	吸啜、嘔吐、摂食・嚥下の機序	
第7回	7/9	唾液分泌と唾液の機能	唾液分泌機構と唾液の性状	
第8回	7/16	発声と発音	発声と構音器官と発音異常	
履修条件	生理学を既に習得済みであること。			
予習・復習	予習; 授業テーマを把握する。復習; 授業で示した教科書の図を理解する。			
テキスト	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (最新 歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版刊)			
参考書・参考資料等	イラストでわかる歯科医学の基礎 (監修; 涸端 孟、祖父江 鎮雄、谷 明、西村 康 永末書店刊)			
学生に対する評価	国家試験形式の筆記試験(80%)、学習態度(20%)による総合評価			

授業 科目名	口腔病理学 (Oral pathology)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 酒巻裕之〔歯科医師〕 (研究室 A408)
		必修: 歯1年	1 単位 15 時間	
			コード: DHB104	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科疾患の病理学的知識をもとに歯科保健指導や予防処置ができることを目標に、顎顔面口腔領域の疾患の原因と病態の特徴を理解する。以下のテーマについて学ぶ。①歯と歯周組織の疾患、②顎骨の疾患、③唾液腺の疾患、④顎口腔領域の腫瘍				
〔授業の概要〕 病理学は、疾病を分類・記載し、その性状を究め、病因およびなり立ち方を研究する学問で、「病理学」を学んだ上で、その各論として口腔病理学を学ぶ。そこでこの授業は講義形式により、歯と歯周組織および口腔、顎骨、顔面、唾液腺ならびに頸部の疾患の原因、診断、検査などに関する病理学的知識を、視覚資料を提示しながら理解を深める。 各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。 口腔外科歯科医師の実務経験により、口腔病理学の講義および学習の支援を行う。 キーワード: 口腔病理学、病態、原因、病理組織検査、予後				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/2	ガイダンス 歯の先天異常	授業の進め方、受講に関する注意事項など 歯の先天異常	
第2回	10/9	齲蝕 歯髄の疾患	齲蝕症、歯髄炎、根尖性歯周炎	
第3回	10/16	歯周組織の疾患	辺縁性歯周炎	
第4回	10/23	口腔組織の治癒 顎骨の疾患	口腔組織の治癒 骨髄炎、骨折	
第5回	10/30	嚢胞 腫瘍総論	顎骨内、軟組織内の嚢胞 腫瘍総論	
第6回	11/6	悪性腫瘍、良性腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍	
第7回	11/13	腫瘍類似疾患 唾液腺疾患	口腔潜在性悪性疾患、腫瘍類似疾患、唾液腺疾患	
第8回	11/20	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨する。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊			
参考書・参考資料等	サクシント カラーアトラス口腔外科学 第4版 山内健志他編 学建書院刊 スタンダード口腔病態病理学 第2版 賀来 亨 他編 学建書院刊			
学生に対する評価	定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。			

授業 科目名	口腔微生物学 (Oral Microbiology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 石原 和幸 米澤英雄、国分栄仁、菊池有一郎 (非常勤講師室)
		必修：歯 1 年	コード: DHB105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践, VII 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 口腔内に住み着く病原微生物が説明できること。デンタルプラークというバイオフィルムの生態を知り、う蝕、歯周病の病原性と全身疾患への関与を理解したうえで、その予防について説明できること。				
〔授業の概要〕 口腔微生物学では、歯科疾患を理解するために多数の菌種から構成されるデンタルプラークというバイオフィルムの形成メカニズムを理解することが求められる。バイオフィルムは宿主防御機構から回避し抗菌剤に耐性でメカニカルな除去が基本であることを理解し、自らその対応について考察していく内容にする。さらに、齲蝕と歯周病はバイオフィルムによる生活習慣関連性の慢性感染症として説明できるようにする。高齢化社会となった我が国では、口腔の健康が「健康長寿」の基盤であることを熟知し、その推進リーダーとしての歯科衛生士の自覚を持てるように取り組んでいく。				
キーワード:デンタルプラーク、バイオフィルム、齲蝕病原菌、歯周病原菌、口腔ケアの細菌学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	11/20	口腔に住み着く病原体	口腔固有の細菌、ウイルスについて(口腔感染性微生物)	石原和幸
第 2 回	11/27	デンタルプラーク細菌	デンタルプラークの特性について (バイオフィルム)	米澤英雄
第 3 回	12/4	口腔内免疫機構	口腔内の自然免疫・獲得免疫の特徴	米澤英雄
第 4 回	12/11	齲蝕原性細菌について	ミュータンス菌のスクロースを使った齲蝕病原性	国分栄仁
第 5 回	12/18	歯周病原細菌について	嫌気性のグラム陰性細菌について (歯周病原細菌)	国分栄仁
第 6 回	1/8	口腔細菌と全身疾患	歯周病の全身への悪影響について (口腔慢性感染症)	菊池有一郎
第 7 回	1/15	口腔ケアの細菌学	メカニカル除去と化学的口腔清掃の意義について	菊池有一郎
第 8 回	1/22	口腔細菌とウイルス	口腔細菌と呼吸器ウイルス感染症について	石原和幸
履修条件	3 分の 2 の授業を受けることを原則とする			
予習・復習	必須			
テキスト	「最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	なし			
学生に対する評価	定期試験 (80%)、学習態度 (20%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科薬理学 (Dental Pharmacology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 三枝 禎【歯科医師】 石毛 久美子【薬剤師】 (非常勤講師室)
		必修：歯 2 年	コード: DHB208	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では薬物の管理の基礎を知ると共に、歯科で使用される代表的な薬物の作用が起こる仕組みを説明できるようになることを目標とする。また、安全で有効な歯科治療の実践に貢献できるようになるため、歯科以外で処方される薬物の作用の特徴について理解することを目指す。				
〔授業の概要〕 専門基礎科目の「薬理学」で学んだ知識をもとに、歯科と他科で用いる薬物の作用の特徴について理解を深め、臨床で役立つように身につける。本授業はオムニバス方式により行い、薬物の取扱い、薬物動態、全身・局所麻酔薬、抗炎症薬、鎮痛薬、血液に作用する薬、化学療法薬については薬学の薬理学教育・研究の実務経験に基づき石毛久美子が、消毒薬、歯科疾患の回復を促す薬物については歯学の薬理学教育・研究の実務経験に基づき三枝禎が担当する。				
キーワード：麻酔薬、抗炎症薬、止血薬、抗血栓薬、化学療法薬、消毒薬				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	薬物の取扱い 薬物動態	薬物の保存方法、薬物と法律 吸収、分布、代謝、排泄	石毛 久美子
第2回	4/16	全身麻酔薬、局所麻酔薬	作用機序、分類、適用	石毛 久美子
第3回	4/23	抗炎症薬、鎮痛薬	炎症と薬、痛みと薬	石毛 久美子
第4回	4/30	血液に作用する薬	止血薬、抗血栓薬	石毛 久美子
第5回	5/7	化学療法薬 (1)	抗感染症薬	石毛 久美子
第6回	5/14	化学療法薬 (2)	悪性腫瘍と薬	石毛 久美子
第7回	5/21	消毒薬	消毒薬の作用機序と分類	三枝 禎
第8回	5/28	歯科疾患の回復を促す薬物	歯内療法薬、歯周疾患治療薬	三枝 禎
履修条件	薬理学を履修したもの。			
予習・復習	授業計画に基づきテキストで予習する。配布資料・ノートを見直して復習する。			
テキスト	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3、薬理学（最新歯科衛生士教本、全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版刊）の他、適宜配布するプリント。			
参考書・参考資料等	専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[3]「薬理学」（医学書院刊）			
学生に対する評価	定期試験の成績（90%）、各講義における小テストを含む授業態度等（10%）により、総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科生化学・臨床検査法 (Oral Biochemistry/ Clinical Laboratory)	履修年次:	1 単位 15 時間	担当教員名: 平塚 浩一 [歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯 1 年	コード: DHB107	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 口腔内に存在する硬組織 (歯や歯槽骨), 軟組織 (歯肉や歯根膜), および唾液の成分とその働きについて説明できる。さらに口腔が感染・感染防御の最前線であることを理解し, う蝕や歯周病の成り立ちを説明できる。講義は, ①硬組織および軟組織の構成成分と特徴, ③唾液成分とその機能, ④炎症の成立と宿主反応, ⑤う蝕と歯周病の成り立ち, のテーマで講義を進める。				
〔授業の概要〕 超高齢化社会を迎える日本の医療は今後「予防」が益々重要となる。口腔は多くの感染症の入り口であることから歯科衛生士は, 予防医療のプロフェッショナルとして, 口腔に関連する知識を十分に理解し臨床の場で役立てる必要がある。担当教員は歯科医師であり, かつ, 日本大学松戸歯学部 of 生化学・分子生物学講座教授, および当学部の附属歯科衛生専門学校長として, 歯学部, 衛生専門学校, および看護専門学校の講義・実習の実務経験を通して, 歯科衛生士コアカリキュラムに準じた学習支援を行う。				
キーワード: 検査, 硬組織, う蝕, 歯周病, 唾液				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	11/20	臨床検査	生化学的検査の種類 (PCR 法, 抗原・抗体検査など)	
第 2 回	11/27	細胞外基質	主な細胞外基質の特徴	
第 3 回	12/4	骨代謝	骨芽細胞と破骨細胞による骨リモデリングと骨粗鬆症	
第 4 回	12/11	歯の硬組織と唾液成分	歯や唾液の構成成分とその特徴	
第 5 回	12/18	血液	血液成分の特徴 (緩衝作用, 血液凝固機序など)	
第 6 回	1/8	中間試験, 炎症	第 1 ~ 5 回の中間試験, 炎症の成り立ちとアポトーシス	
第 7 回	1/15	う蝕	う蝕および菌体外多糖形成の機序	
第 8 回	1/22	歯周病	歯根膜・歯肉の代謝の特徴と歯周病の成り立ち	
履修条件	特になし。			
予習・復習	授業はプリントへの書き込みに集中し, 当日中に復習すること。不明な点は講義担当者にメールで尋ねること。			
テキスト	特に指定なし			
参考書・参考資料等	スタンダード生化学・口腔生化学 (荒川ら) 学建書院			
学生に対する評価	中間試験 (第 1 ~ 5 回 ; 4 5 問) と定期試験 (6 ~ 8 回 ; 3 5 問) を合わせ, 8 0 問の正答率で 6 0 % 以上を合格とする。			

授業 科目名	口腔衛生学 (Oral health)	履修年次: 必修: 歯1年	単位数: 2 単位 30 時間	担当教員名: 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: DHB106		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、 V 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、口腔疾患の発病因子とその予防方法、口腔疾患と社会・生活環境との関連性を学ぶことにより、歯科臨床および地域歯科保健の基礎知識が理解できるようになる。				
〔授業の概要〕 口腔衛生学では、う蝕や歯周病をはじめとした口腔疾患の病因、病態を把握し、これらを踏まえた上で、その予防法が理解できるようになる。さらに個人および集団を対象とした口腔健康管理、歯科保健指導、歯科予防処置の基礎を確立できる。本授業は大川が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 口腔疾患、う蝕、歯周病、地域歯科保健、疫学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/4	総論	口腔衛生学の意義、口腔の健康と予防	
第2回	10/11	口腔環境と関連要因(1)	歯・口腔の構造と機能、唾液の性状と役割	
第3回	10/18	口腔環境と関連要因(2)	歯の付着物・沈着物の種類と特徴	
第4回	10/25	口腔清掃	口腔清掃の意義と口腔清掃法	
第5回	11/1	う蝕発生機構と発生要因	う蝕発生メカニズムと発生要因	
第6回	11/8	う蝕の予防法(1)	う蝕発生要因に対する予防法(1)	
第7回	11/15	う蝕の予防法(2)	う蝕発生要因に対する予防法(2)	
第8回	11/22	フッ化物によるう蝕予防(1)	歯のフッ素症、フッ化物のう蝕予防メカニズム	
第9回	11/29	フッ化物によるう蝕予防(2)	フッ素の代謝、フッ化物応用の種類	
第10回	12/6	歯周病の予防	歯周病の疫学的特徴、全身疾患との関連性	
第11回	12/13	その他口腔疾患の予防(1)	不正咬合の分類およびその原因と予防法	
第12回	12/20	その他口腔疾患の予防(2)	口腔癌、口腔機能低下症等の原因・症状・予防	
第13回	1/10	その他口腔疾患の予防(3)	口臭の種類と原因、口臭の予防	
第14回	1/24	口腔疾患の疫学	う蝕の疫学、歯周病、その他口腔疾患の疫学	
第15回	1/31	総括	ライフステージ別にみた口腔管理	
履修条件	特になし			
予習・復習	授業に関する資料を配布するので、予習・復習に活用すること。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (90%)、日頃の学修態度 (10%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科診断学 (Dental Diagnosis)	履修年次: 必修: 歯2年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: DHB213	担当教員名: 佐々木みづほ[歯科医師] (研究室: 教育棟 A406)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, V 健康づくりの環境の整備・改善, II コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 各種口腔診査法およびエックス線検査の概要を学び、検査結果をもとに歯科診断に至るプロセスを知る。また、エックス線検査の方法と放射線防護の基礎的知識について理解する。				
〔授業の概要〕 患者の来院から診断に至るまでの医療面接、各種口腔検査およびエックス線検査の意義と方法について、歯科医師としての歯科診療の実務経験に基づき解説する。とくにエックス線検査に関しては、放射線の基礎的知識、エックス線写真の撮影原理と読像、放射線防護について説明する。収集した情報を論理的思考により分析し診断を行うプロセスについて解説する。				
キーワード: 医療面接、口腔検査、エックス線検査、放射線防護、診断				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/2	患者の診かた	診断の手順、病歴のとり方	
第2回	10/9	口腔検査法	各種口腔検査の概要、臨床検査の意義	
第3回	10/16	診断のプロセス	診断の目標、鑑別診断	
第4回	10/23	エックス線検査1	歯科医療と放射線、放射線防護	
第5回	10/30	エックス線検査2	エックス線画像の形成、歯科におけるエックス線検査(口内法)	
第6回	11/6	エックス線検査3	歯科におけるエックス線検査(パノラマ、セファロ)	
第7回	11/13	エックス線検査4	エックス線検査における歯科衛生士の役割	
第8回	11/20	歯科診断学のまとめ	修学した内容の要点	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として教科書を熟読のこと。復習としてプリントおよび教科書の見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生シリーズ「歯科放射線学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験(90%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科矯正学 (Orthodontics)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者: 根岸慎一 塚田美智子 [矯正歯科・歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯3年	コード: DHB214	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では①頭蓋顎顔面の発生および成長・発育を理解する。②不正咬合とその原因と発症機序、不正咬合を発症する疾患や先天異常、ならびに不正咬合の予防について理解する。③矯正歯科治療に使われる装置、器具、器材および治療方法について理解する。④矯正歯科治療における歯科衛生士の役割を理解し、説明できることを目標とする。テーマは①総論、②診断学、③矯正治療に関係する組織学、力学、④矯正歯科治療の実際、⑤矯正歯科における口腔管理の順で講義を進めていく。				
〔授業の概要〕 歯科矯正学とは、不正な成長発育による不正咬合や上下顎骨の異常な咬合関係を予防および改善する歯科医学の一分野である。近年わが国においても口腔衛生知識の向上に伴って矯正歯科治療に対する要望は年々高まりつつある。これらをふまえて歯科衛生士として必要な歯科矯正学の基礎および臨床的知識の向上をめざす。授業は講義形式により教授する。				
キーワード: 歯科矯正学、成長・発育、咬合、歯の移動、口腔衛生管理、口腔筋機能療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	歯科矯正学概論 成長・発育	歯科矯正学の概略を理解する。成長と発育の意味と頭部・顎・顔面の成長を理解する。	
第2回	4/18	咬合 (正常咬合・不正咬合)	正常咬合・不正咬合の特徴について理解する。	
第3回	4/25	矯正診断 矯正力と顎整形力	矯正治療に必要な診査、分析および診断について理解する。歯が移動する際の歯周組織変化について理解する。	
第4回	5/2	矯正歯科用の材料・器具	矯正用器材の名称と用途について理解する。	
第5回	5/9	矯正装置と 矯正歯科治療	臨床例をあげて矯正装置の名称と用途および治療について理解する。	
第6回	5/16	矯正歯科治療の実際	様々な不正咬合の治療の流れについて理解する。	
第7回	5/23	保定と偶発症 口腔衛生管理	保定と偶発症について理解する。口腔衛生管理・矯正歯科における歯科衛生士の役割について理解する。	
第8回	5/30	口腔習癖と 口腔筋機能療法	口腔習癖と口腔筋機能療法について理解する。	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。		
テキスト		最新歯科衛生士教本 咀嚼障害 咬合異常2 歯科矯正 (医歯薬出版株式会社)		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 (80%)、学習態度 (20%) により、総合的に評価する。 なお、課題物がある場合、その評価は日頃の学習態度に含める。		

授業 科目名	歯科材料学 (Dental Materials Science)	履修年次: 必修:歯2年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 荒川 真[歯科医師] (研究室:A405)	
		実務経験のある教員による授業科目			
		コード: DHB215			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善					
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科臨床で使用される歯科材料の種類と使用方法について理解し、口腔の健康管理に貢献できる能力を培うことを目標とする。					
〔授業の概要〕 歯科臨床においては、様々な歯科材料が取り扱われるが、歯科材料の取り扱いは、歯科衛生士次第で大きく影響されるため責任は重く、歯科衛生士にとって歯科材料に関する知識は必須である。歯科衛生士が歯科診療補助において歯科材料の取り扱いを円滑かつ確実な操作で行うためには、各材料の基本的性質を踏まえた上での正しい操作法の修得が望まれるため、基礎となる歯科材料の理工学的性質、種類、目的、用途や、実際の歯科臨床との関連性について理解し、歯科衛生士として備えるべき知識を学ぶ。					
キーワード: 歯科臨床、印象材、模型材、修復材、仮封材					
〔授業計画〕				月曜日	Ⅲ限
回数	日付	テーマ	内 容		
第1回	4/8	歯科材料の基礎知識	歯科材料の分類、所用性質、素材、基本的性質		
第2回	4/15	印象材	印象材の種類と分類、用途、性質、取り扱い		
第3回	4/22	模型用材料	模型用材料の種類と分類、用途、性質、取り扱い		
第4回	5/13	合着・接着材	合着・接着材の種類と分類、用途、性質、取り扱い		
第5回	5/20	歯冠修復材	歯冠修復材の種類と分類、用途、性質、取り扱い		
第6回	5/27	仮封材、仮着材、新しい歯科材料や他の歯科治療用材料	仮封材、仮着材、新しい歯科材料や他の歯科治療用材料の種類、適応、取り扱い		
第7回	6/3	その他の歯科治療用材料	その他の歯科治療用材料の種類、適応、取り扱い		
第8回	6/10	歯科材料学のまとめ	修学した歯科材料のまとめ		
履修条件		特になし。			
予習・復習		予習・復習をすることが望ましい。			
テキスト		第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店			
参考書・参考資料等		特になし。			
学生に対する評価		定期試験 (70 %) および学習態度 (30 %) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科保存学 (Operative Dentistry and Endodontics)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 荒川 真 [歯科医師] (研究室: A405)
		必修: 歯2年	2単位 30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード: DHB210	
〔DP〕 III 実践に必要な知識, V 健康づくりの環境の整備・改善, II コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯の硬組織疾患(う蝕など)、歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の病態および各疾患に対する治療法を説明することができ、歯科保存治療における歯科衛生士の役割が理解できる。				
〔授業の概要〕 歯の硬組織疾患、歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の病態と、これらの疾患の治療法の概念および臨床術式について、歯科医師としての歯科診療の実務経験に基づき解説する。また、歯科ホワイトニングについての概要を解説し、臨床術式を紹介する。				
キーワード: う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、保存修復治療、歯内療法、ホワイトニング				
〔授業計画〕				金曜日 IV限
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/12	歯科保存学総論	歯科保存学の領域と分類、歯科保存治療の対象疾患	
第2回	4/19	保存修復学1	歯の硬組織疾患の種類と病態、窩洞と保存修復治療、MI(ミニマルインターベンション)の概念とう蝕治療	
第3回	4/26	保存修復学2	保存修復治療の診療ステップ、保存修復治療の準備、歯の切削と窩洞形成、歯髄保護、保存修復の種類	
第4回	5/10	保存修復学3	コンポジットレジン修復(1)	
第5回	5/17	保存修復学4	コンポジットレジン修復(2)	
第6回	5/24	保存修復学5	セメント修復	
第7回	5/31	保存修復学6	メタルインレー修復	
第8回	6/7	保存修復学7	CRインレー修復およびセラミックスインレー修復、ラミネートベニア修復、合着材および接着材	
第9回	6/14	歯のホワイトニング概論	歯科ホワイトニングの分類と使用薬剤、オフィスホワイトニングとホームホワイトニング、ウォーキングブリーチ	
第10回	6/21	歯内療法学1	歯髄炎・根尖性歯周炎の分類と症状、処置方針	
第11回	6/28	歯内療法学2	歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法、生活歯髄切断法	
第12回	7/5	歯内療法学3	抜髄法	
第13回	7/12	歯内療法学4	感染根管治療、	
第14回	7/19	歯内療法学5	根管充填	
第15回	7/26	歯内療法学6	外科的歯内療法、歯の外傷、歯内療法における安全対策	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として教科書を熟読のこと。復習としてプリントと教科書の見直しを推奨。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	歯周治療学 (Periodontology)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 荒川 真[歯科医師] (研究室:A405)
		必修:歯2年	1単位 15時間	
			コード:DHB240	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科衛生士として、歯周疾患の予防と治療に関わるための基礎知識と臨床術式を理解すること。				
〔授業の概要〕 歯周疾患の予防と治療に歯科衛生士として関わっていくための基礎知識と臨床術式を理解する。具体的には、①歯周予防の意義、②初診からメインテナンスまでの歯周治療の流れと基本的考え方、③初期治療の概念と重要性、④SRP、歯周外科の種類と準備する器材、⑤歯周治療後における患者側と医療者側からのメインテナンス方法、等について学ぶ。				
キーワード: 歯周疾患、歯肉炎、歯周炎、基本治療、歯周外科				
〔授業計画〕				火曜日 I 限
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/9	歯周治療の概要	歯科診療における歯周治療の意義および概要	
第2回	4/16	歯周疾患の原因と種類	歯周疾患の成因および分類	
第3回	4/23	歯周疾患治療の進め方	歯周疾患を引き起こす口腔内の局所性因子と全身性因子、およびそれらへの対応について	
第4回	4/30	歯周疾患の診査	歯周疾患の各種診査法	
第5回	5/7	歯周基本治療	歯周基本治療の必要性と処置法および治療計画	
第6回	5/14	歯周外科治療	歯周外科の種類と特徴、使用器材および術式	
第7回	5/21	歯周治療としてのリハビリテーションおよびメインテナンス	①咬合調整、固定法など ②メインテナンスの重要性と意義	
第8回	5/28	歯周治療学のまとめ	修学した内容の要点	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習・復習をすることが望ましい。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験 (70 %) および学習態度 (30 %) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科補綴学 (Prosthodontics)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 2 単位 30 時間	担当教員名: 佐々木みづほ [歯科医師] (研究室: 教育棟 A406)
			コード: DHB211	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, VI 多職種との協議, I 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科補綴治療の概要と種々な補綴装置の特徴を理解し、口腔の健康管理に貢献できる能力を培うこと。				
〔授業の概要〕 実務経験のある歯科医師により、以下補綴学の基礎的知識を修得するための講義および学修の支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔系の基本的な形態、機能、咬合 ・歯の実質欠損、歯列の部分的および全部欠損、咬合の不調和等が顎口腔系にもたらす変化および障害 ・歯科補綴物の理解と歯科補綴治療の実際 (診療室・技工室)、歯科医師と歯科技工士との連携・協力 				
キーワード: 歯科補綴物、クラウン・ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、インプラント				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	補綴歯科治療の基礎 1	補綴歯科治療の基礎知識	
第2回	4/16	補綴歯科治療の基礎 2		
第3回	4/23	補綴歯科治療の基礎 3		
第4回	4/30	補綴歯科治療の基礎 4	補綴歯科治療の方法と補綴装置	
第5回	5/7	補綴歯科治療の基礎 5		
第6回	5/14	クラウン・ブリッジ 1	クラウン・ブリッジ治療の概要 クラウン・ブリッジ治療の流れと診療補助 クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	
第7回	5/21	クラウン・ブリッジ 2		
第8回	5/28	クラウン・ブリッジ 3		
第9回	6/4	有床義歯 1	全部床義歯の概要 全部床義歯治療の流れと診療補助	
第10回	6/11	有床義歯 2		
第11回	6/18	有床義歯 3	全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応 部分床義歯の概要 部分床義歯治療の流れと診療の補助 部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応	
第12回	6/25	有床義歯 4		
第13回	7/2	有床義歯 5		
第14回	7/9	インプラント学 1	インプラント治療の流れ	
第15回	7/16	インプラント学 2		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読。復習にはテキストと配布資料の見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生シリーズ「歯科補綴学 (第1版)」医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		指定しない。必要時に適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験: 理解度 (80%) と学習態度: 積極性および課題の取り組み状況 (20%) により、総合的に評価する。課題の詳細や提出方法は授業時間内に説明する。		

授業 科目名	顎口腔外科学 (Oral Maxillofacial Surgery)	履修年次: 必修: 歯2年	単位数:2 単位 30 時間 コード: DHB212	担当教員名: 酒巻 裕之[歯科医師] (研究室 A408)、 山口 秀紀[歯科医師] (非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯・顎・口腔領域に生じる顎口腔外科疾患の診療において歯科衛生士としての役割を果たすことを目標に、顎口腔外科疾患の診察と診断の介助、口腔外科処置の診療補助、患者の全身評価に関する知識を学ぶ。				
〔授業の概要〕 今日の歯科医療は単に歯の健康管理だけではなく、より広く口腔全体の健康管理に預かるものとなっている。そこで、この授業は講義形式により、歯・顎・口腔領域に生じる疾患の診断や治療法の観点から学び、取り扱う疾患の概説、治療の原則、手術前・術後の管理に関する知識を学ぶ。各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。(本授業はオムニバス形式により行い、口腔外科の疾患治療については酒巻裕之が、歯科麻酔、全身管理については山口秀紀が歯科医師の実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 口腔外科、診断、外科処置、歯科麻酔、全身管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/10	ガイダンス	歯周組織、顎骨、顎骨周囲の炎症	酒巻裕之
第2回	4/17	口腔領域の炎症	口腔領域の炎症の医療	
第3回	4/24	口腔領域の嚢胞	顎骨内、軟組織に応じる嚢胞	酒巻裕之
第4回	5/1	口腔粘膜疾患	水疱、潰瘍、白斑、色素沈着等の異常	酒巻裕之
第5回	5/8	口腔領域の腫瘍①	腫瘍総論、良性腫瘍、悪性腫瘍、周術期口腔機能管理、歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、口腔潜在的悪性疾患、	酒巻裕之
第6回	5/15	口腔領域の腫瘍②		
第7回	5/22	口腔領域の損傷	歯、顎骨、軟組織の損傷	酒巻裕之
第8回	5/29	唾液腺疾患、神経疾患	炎症、腫瘍、口腔乾燥症、神経痛、神経麻痺	酒巻裕之
第9回	6/5	口腔領域の先天異常・変形	顎顔面領域の先天異常、顎骨異常	酒巻裕之
第10回	6/12	血液疾患、出血性素因	血球の異常、出血性素因、止血法	酒巻裕之
第11回	6/19	顎顔面口腔外科の診療①	診察と診断: 医療面接、診療上の注意	酒巻裕之
第12回	6/26	顎顔面口腔外科の診療②	口腔外科小手術、手術器械の準備、注意事項	酒巻裕之
第13回	7/3	顎顔面口腔外科の診療③	全身麻酔法、精神鎮静法、局所麻酔法、全身管理、採血法、注射法	山口秀紀
第14回	7/10	顎顔面口腔外科の診療④		酒巻裕之
第15回	7/17	顎顔面口腔外科の診療⑤、まとめ	拔牙術、拔牙の偶発症、まとめ	酒巻裕之
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨する。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊			
参考書・参考資料等	歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版 古森孝英 編著 永末書店刊、サクシント カラーアトラス 口腔外科学 第4版 山内健志 他編 学建書院刊、標準口腔外科学 第4版 野間博康 他監修 医学書院刊、現代口腔外科学 第1版 里村一人 他編著 わかば出版刊			
学生に対する評価	定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。			

授業 科目名	顎口腔機能論 (Therapy of stomatognathic function)	履修年次: 必修: 歯2年	単位数: 1単位 15時間 コード: DHB260	担当教員名: 酒巻 裕之[歯科医師] (研究室 A408)
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、歯科衛生士として顎口腔機能の機能をサポートできるようになるために、顎口腔機能を理解することを目標に、以下のテーマに関する知識を学ぶ。① 全身状態の把握と歯科診療上の注意点、② 口腔機能に関する検査、③ 摂食・嚥下機能の発達とその異常、④ 言語機能の発達とその異常				
〔授業の概要〕 顎口腔機能は、消化器、呼吸器に含まれており、そこに障害が生じるとさまざまな機能障害を伴う。授業は講義形式により、歯科治療時の全身状態の評価・全身管理を要する歯科治療に関する知識、口腔機能の発達不全や機能低下に関する検査法、歯科衛生士の全身疾患を有する患者の歯科治療における診療補助について理解を深める。各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。 口腔外科の歯科医師が顎口腔機能に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 顎、口腔、機能、病態生理、全身管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	5/29	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	
第2回	6/5	患者情報の把握	全身状態、頭頸部の診査法、バイタルサインの意味と味方	
第3回	6/12	全身評価 術前・術中・術後管理	臨床検査、胸部エックス線検査、心電図、全身評価、術前・術中・術後のモニタリング	
第4回	6/19	口腔機能の発達と推移	「食べる機能」「話す機能」「呼吸する機能」の発達と推移	
第5回	6/26	摂食・嚥下、構音機能	摂食・嚥下機能の獲得とその異常、構音機能とその異常	
第6回	7/3	口腔機能発達不全	口腔機能発達不全に関する検査	
第7回	7/10	口腔機能低下症	口腔機能低下症に関する検査	
第8回	7/17	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨する。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ「臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊、【歯科衛生士版】改訂 全身管理と救急蘇生法 渋谷 鈺 監修 学際企画刊			
参考書・参考資料等	基礎歯科生理学 第5版 森本俊文 他編 医歯薬出版刊、 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊、他、授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科衛生基礎演習 (Basic Seminar indental hygiene)	履修年次: 必修: 歯2年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者佐々木みづほ[歯科 医師] (研究室: A406)、酒巻裕之[歯 科医師]、石原和幸[歯科医師] (非 常勤講師)、松木千紗[歯科衛生士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム III 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践,				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科診療や口腔機能管理時に、患者の全身や口腔状態を把握し歯科衛生士として適切な対応をすることを目標に、基礎として歯の役割や形態の理解、各種検査法の実践、バイタルサインの把握ができる				
〔授業の概要〕 本授業はオムニバス形式により実務経験のある歯科医師および歯科衛生士が担当する。歯型彫刻では「口腔解剖学」の知識をもとに歯の役割、形態を立体的に把握する。細菌学検査では「口腔微生物学」「口腔衛生学」で習得した齲蝕と歯周病の発症と微生物の関連性を各種検査法の実施や細菌培養、顕微鏡観察から理解する。生体検査、全身管理と歯科治療・口腔健康管理では「顎口腔外科学」の知識をもとに全身管理下での歯科診療時の歯科衛生士の役割や全身管理されている患者に対する口腔健康管理を安全に実施するための基礎知識を習得する。				
キーワード: 齲蝕活動性試験、唾液検査、歯型彫刻、モニタリング、口腔健康管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/27	ガイダンス	演習の進め方、評価について	佐々木みづほ
第2・3回	6/3	歯型彫刻①	歯型彫刻(上顎中切歯)	佐々木みづほ
第4・5回	6/10	歯型彫刻②	歯型彫刻(上顎第1大臼歯)	松木千紗
第6・7回	6/17	口腔領域における細菌学検査①	う蝕活動性試験、歯周病検査、唾液検査、口腔内細菌培養	松木千紗 佐々木みづほ
第8・9回	6/24	口腔領域における細菌学検査②	口腔内細菌(う蝕・歯周病)の顕微鏡観察、スケッチ	石原和幸 佐々木みづほ 松木千紗
第10・11回	7/1	生体検査	体温、脈拍、呼吸、血圧の測定	佐々木みづほ 松木千紗
第12・13回	7/8	全身管理と歯科治療	臨床検査(血糖値の測定) モニタリング(血圧、心電図、SpO ₂)	酒巻裕之、 佐々木みづほ 松木千紗
第14・15回	7/22	演習のまとめ	本演習のまとめ	佐々木みづほ
履修条件	口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。			
予習・復習	予習としてテキストや事前配布資料を熟読。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	歯科衛生シリーズ「臨床検査」医歯薬出版刊、歯科衛生士版「改訂全身管理と救急蘇生法」、渋谷 鈺 監修、学際企画刊口腔微生物学、口腔衛生学で使用するテキスト			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題・レポート・実技試験(80%)、学習態度(20%)により総合的に評価する。			